

<p>教区御遠忌テーマ</p>	<p>高田教区報</p>	<p>響流</p>	<p>発行所 上越市寺町2丁目24-4 真宗大谷派 高田教務所 編集 響流編集委員会 発行 杉本了恵 印刷 サクラ印刷(株)</p>
<p>今、いのちがあなたを生きている 流罪からの出発 -私はどこで生きているのか-</p>			



宗祖親鸞聖人七百五十回御正当報恩講 11月28日 結願日中 (御満座)

## 御正当報恩講に出仕して感じた事

東日本准堂衆会会長 田中圭悟

五〇年に一度の御正当報恩講に出仕のご縁を頂きました。結願は二六〇名の出仕、ご門徒の参詣は一万人を超える参拝者で白洲のテントも満員でした。

出仕をして感じた事は儀式・作法の大切さです。出退作法・和讃本の扱い方・正しい聲明など私達住職は御門徒の法要仏事でお勤めをさせて頂きますが、正しい作法・聲明でお勤めさせていただいているでしょうか。

亡くなられた大阪光善寺の藤原先生は、聲明は、莊嚴で声の良し悪しでは有りません。節附通り正しく読めば美しく聞こえるものです。また今年八月に亡くなられた慧光寺の近松先生は私と会いますと「田中さんお布施を頂ける聲明をしているでしょうね」という厳しいお言葉をかけて頂きます。教区でも声明講習会が開催されます。本山から声明作法のプロからおいで頂きますが、自己流でなく正しい声明作法を習う良き機会と思います。お習いした正しい声明作法でご門徒の仏事を勤める事が私たちの使命ではないかと考えます。

次代を担う方々から積極的に中央声明講習会に参加し正しい儀式作法を習得して頂きたいと思えます。

高田・新井別院でも報恩講が勤まりますが出仕者の少ないのに「なぜ」という疑問が湧いて来ます。両別院護持の為、ご門徒さまから護持金をいただいている私達です。一座も出仕しないというのはご門徒への「報恩」がなされていないと言う事になるのでは。

四月一日全国准堂衆会役員会の折、近松先生がお見えになり、本山では被災地現地での追悼法要の計画はないので准堂衆会として現地で追悼法要を行って欲しいとの要望が有りました。その言葉が遺言となり御正当中開かれた役員会議上全員一致で追悼法要を行うことが決定されました。教区の皆様のご協力をお願い申し上げます。

# ひびき ④1

第一組本立寺住職

渡邊 眞証さん



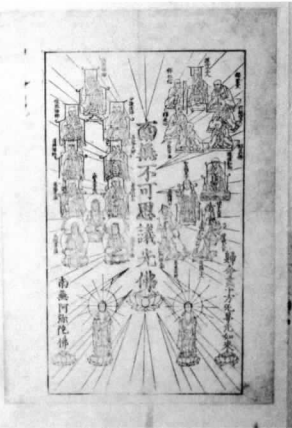
今回お話を伺いする渡邊眞証さんは、昭和二十四年に旧青海町大沢の地に生まれ現在六十二歳。

住職の他、養蜂業、仏壇や掛け軸等の修復をする工房を営み、公職としては保護司と裁判所の調停員。それ以前は民生委員など様々な活動をしておられ



ます。その一つひとつへの関わりが、とても力強く且つユニークで存在感のある方です。今回は、その原動力がどこにあるのかを少しでも知ることができればと思い取材をさせていただきました。

◆工房には古い仏壇を修復する際に処分してほしいと依頼されたものの中に昔の信仰の様子をうかがわせる貴重な資料があるとのことなので、それを見せていただきました。



高僧・御名号



玉日姫御往生魂

◆僧侶になることについて迷いはなかったんですか？何か僧侶になるきっかけがあったんですか？  
いろいろ理由があるんですけど

も、今の坊さんは自分が浄土真宗を選んだという、先ずそういう選びがない。だから、もし禅宗のお寺に生まれていけば禅宗の坊さんになっていくだろうし、日蓮宗なら日蓮宗に、キリスト教ならキリスト教になっ

ていていくだろうし、そういう自分に授かった宿命だけで宗教というものを求めていく、或いは、求めていくというよりも、その道に単なる従属するとか、そういうのは俺は許せんとか、そういうことをずっと言っていた。でも、もつとひどいのは自分で、京都（大谷大学）から帰ってきて、いろんな仕事、仏壇を直したり掛け軸を直したりとか、蜜蜂を飼ったりとか、そういう八百万の仕事をつぱいしながら小遣いを稼いでいた。家は小寺だから経済的には豊かでないし、坊主で食ってはいけないんだ。親父は、自分の代で寺は潰れても良いと決意して、俺にも好きな道を選んで良いといいながら、俺が谷大へ行ったことを内心喜んでいた。それなのに坊主にならないどころか真っ赤っかに染まって帰ってきたわけだから、親父にしたらすごい不満だったろう。でも家へ入ってくれたのは嬉しかったみたいだ。でも俺には家を継ぐという発想はなく、ただ娑婆中を批判しながらただブラブラしているだけだった。

浄土真宗の僧侶が、親鸞さんの教えを、阿弥陀さんの教えを、或いは仏法という一つの教えというものを、自分で一生生きていく選びにしたのかどうかということを、人に対して追求ばかりしていた。

そのことを入善の浄蓮寺さんという方に「あんた、いつになったら親鸞さんというのを解らんや。」と指摘されて、「いやあ、解りません。」といったら「俺だって解らんわや。でも、あんたのは解る解らんの前には肩肘張って生きとる。」と、自分だけが正しくて周りは全部間違っているみたいな生き方を「あんたのその肩張った疲れた肩は、いつになったら楽になるんや。」といわれた。その方と色々話をさせてもらう中で、俺も専修学院へ行って親鸞さんを学びたいと思うようになった。俺が専修学院へ行ったという事を聞いて、あちこちから婿さんに来てくれないかという話がいつぱい来たそうだが、でも俺は、ここで生まれたんだから、ここでいっしょに育った大沢の人や青海の人たちといっしょに生きていかんかったら宗教も何もないじゃないか。貧乏してもいいから、住職になるんなら小寺の住職でいいから、ここでやっていこうと思ったんだ。

◆専修学院はどうでしたか？

専修学院ではいろんな人たちと交わることができた。特に自分たちの時(昭和四十九年生)は面白かった。とんでもない人たちが集まっていたのかもしれないが…。

こんな事もあった。寮生活は飲酒禁止だったけど、俺は布団の下などにウイスキーを隠しておいたんだ。そしたらあるとき、帰ってきたらみんな俺のウイスキーを飲んでるんや。俺は怒って「なにしとるんや。人の部屋に勝手に入って、人のもの勝手に飲んで…」といったら一年上の○○さんという人がいたんだけれど、その人が「おまえ、見つかったら飲まれると思つたから隠したんだろ。だからおまえの願い通りになつてやるんか。」と言われてしまった。論理的というか落語のネタみたいな感じだけど。そういう仲間たちだった。専修学院でいろんな人と交わって、いろんな出来事があった、やつと人の意見が耳に入るようになったように思う。

◆眞証さんは色々なことにすぐく

生懸命に関わっているじゃないですか。そのバイタリティーはどこから出てくるんですか？

俺が京都から帰ってきた頃、千葉県だったか「すぐする課」というのがあったんだよ。俺もその発想なん

だ。問題があつたらその日にでもすぐ解決したいと思う。早く行動しないと物事はどんどん泥沼に入つてしまふからね。

◆部落差別問題に関わる中で忘れられないことはありますか？

大谷大学の学生が関わっていた被差別部落があつた。そこで子ども会や青年会をやったりしていた。そこでは小さな部屋に部落の若い人たちも集まって座談会をしたりしていたが、その中に独身の女の子がおなかの大きくなつている娘がいた。その娘に対して他の男の子が「おまえ、その腹の子は誰の子や。」などと言つてからかかっていた。それがしつこかつたものだから、その女の子は最後に腹を立てて「なんやねん。これはワシの子や。ワシは産むねん。」と言つて立ち向かつたことがあつた。若い娘が、そういう不安定な生活しながら子どもを産んで独り立ちするというのは、なかなか大変なことだ。世間からも親子共々後ろ指さされるし、まして相手の男が分からないだとかということになれば、もっと大変なことの訳だ。それでも「これはワシの子や。」と言つたその娘の度胸というか強さにはもうカルチャーショックだった。

◆養蜂について聞かせてください。

養蜂は管理が大変。特に冬を越すのが大変だから、周囲の人はみんな止めてしまった。養蜂の基本は親父から教えてもらったけど、岐阜の養蜂業者の所へ行つて色々聞いた。でも地域によって環境が全然違うから越冬の方法も違つてくる。スズメバチの退治や熊の攻撃を防ぐことも大変なことだ。

◆以前に「オレは蜂のお陰で学校出

してもらつたんだ。」といつていたことがありましたね。

夏休みに

帰つてきて生懸命ミツしぼりもした。業者に売ると安くたたかれるから、知っている人に買つてもらつたり、「青海デンカ」の社宅の人にいっぱい買ったもつたりした。



蜜蜂の越冬

谷大の学生の頃もサイダー瓶に入れて送つてもらつては友達に売つたりして生活の足しにしていた。生協もやつていたから「これ生協で売っているんか？」とか聞かれて「違う違う。これは個人でやつているん

や。」とか言うやり取りもしていた。

でも養蜂の仕事は大変なんだよ。今年も三回ほどしぼつたけど。最近一人でしぼるんだ。昔はアルバイトを頼んでいたけど、ハチには刺されるし夏でも冬みたいな格好で長靴はいてゴム手袋してしぼるから、まるでサウナに入つているように暑い。それに大スズメバチなんかもたくさん来るから、タモなどでしよつちゅう取らなくてはならないし、そういう天敵との戦いというか…。そういうことも含めて、生き物を飼つているという事は中々おもしろい。鶏も飼つているのでイタチが来ては鶏を襲う。そこでワナを買つてイタチを捕まえてあつちこつち山まで行つて放したりもした。一月だけで十匹取つた事がある。イタチや狸なんかはみんな同じ顔だと思つていたけど、よく見るとみんな違うんだよね、やっぱり。「おまえはこの前のイタチと違うな。」とか言つてき。

「自分は直角人間だった。」と言つておられましたけど、何事に対しても逃げずにまっすぐ関わっていくこと、それが若いときから今日に至るまでずっと貫かれてる渡邊眞証さんという方の柱だと感じました。この度はありがとうございました。

# 高田別院・新井別院報恩講

## 別院報恩講の翌朝

高田別院列座 直江 証成

本願寺八代目の蓮如上人が当時のご門徒宛に書いたお手紙としての『御文』。現在ではそれをお勤め後に拝読するという形になっています。

拝読するものとして八十通ほどある『御文』ですが、一年に一回しか読まない「選り御文」が何通かあります。その中の一つに報恩講を勤め終わった翌朝にしか読まないものがあります。その「お浚の御文」の中の一節です。「細々に信心のみぞをさらえて、弥陀の法水をながせ」



期間中には高田大谷保育園の報恩講も勤められた



## 新井別院報恩講

第七組良明寺門徒 古沢ミヨ子

十一月一〜四日の日程で新井別院の報恩講が勤まりました。私は、親鸞聖人報恩大根煮のお手伝いをさせていただきました。

例年、この時期になるとみぞれ交じりの天候になることが多く、作業もつらくながちですが、今年はずいぶん恵まれて、暖かな日差しの中で作業することができて、助かりました。

その天候のおかげで、本堂には数



期間中にはときわ保育園の園児参拝も行われた

（御文第二帖目第一通「真宗聖典」七七七頁）と。真宗門徒にとっての一年が報恩講に始まって報恩講に終わると教えられますように、報恩講を勤め溝を浚えて（掃除して）終わりではない。新たにその溝に仏法を流せと。真宗門徒にとっての報恩講とは一人ひとりの信心ということについての再確認の場であり、そこから新たに仏法聴聞の生活が始まっていくのだということを教えられる一節であります。しかしながらこの『御文』を拝聴いたしますと耳を塞ぎたくなるような思いにかられます。それは私自身の信心確認作業を問われるからであります。そう問われながらも一年ははじまってしまったのであります。

多くの参拝の方が来られ、一時は山門まで行列ができるほどでした。後で聞いた話ですが、お斎もいつもよりたくさんの方が集中して来られて、大変だったようです。また、稚児行列や時代まつりの甲冑行列も予定通り行うことができ、参加した子どもたちの本堂の前で参りしている姿が見受けられました。

この伝統ある、新井別院の報恩講を体の続く限り見守っていききたいと思ひます。

### 得度受式者の集い はじめての出仕

第十三組 浄嚴寺 小四 坂井 真心

わたしは高田別院の報恩講のときに行われた「得度受式者の集い」で、初めて出仕しました。

出仕して一番楽しかったことは、やっぱりお経を読んだことです。出仕の案内が届いて、家で練習をしていましたが、始まる前はとてもどきどきしました。でも、家族が応援してくれたので、少しきん張がほぐれました。

お内陣に座りお経がはじまりました。お経は速かったのですがとても驚きました。でも一生けん命がんばってついていきました。

ずっと正座をしていたので、足がとつてもいたかったです。

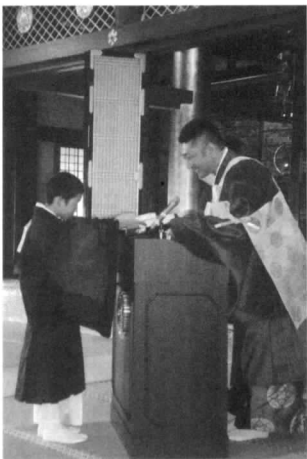


「いたたたっ！」

でも、がまんして立ち上がり、ゆつくり歩いて何とか転ばずにお内陣を出ました。

終わった後、見に来ていた家族にたくさんほめてもらい、とてもうれしかったです。

家に帰って家族みなでお経を読みました。これからお経を読む練習をして、上手になりたいと思いました。

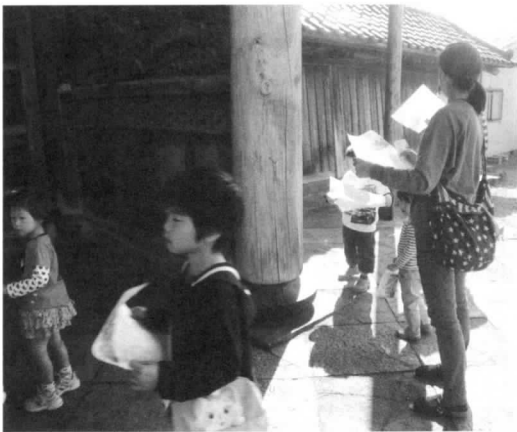


### 子ども報恩講

今年も高田・新井両別院報恩講期間において、三回目となる「子ども報恩講」が行われました。

過去二回の紙芝居については、スタッフで行ってきたものを、今年は『昔かたり春よこい』所属の糸魚川市の中村栄美子氏より自作の紙芝居を演じていただきました。手遊びやクイズなども交えながらの内容で、子どもたちだけではなく、大人たちも楽しんでいただけただけではないでしょう。

両別院の報恩講期間中には、大谷保育協会加盟園の協力により、年長児の絵画展も行っております。各保育園におかれましては、ご協力ありがとうございました。



高田別院山門での宝さがし

### 子ども報恩講でクイズや

### 宝さがしをしたよ

第6組 等正寺 小二 いなし水 じん

ぼくは、十月九日の子ども報恩講に参加しました。まず別院の本堂でおつとめを聞きました。たくさんの方がいて、とてもだいじなことなんだなと思いました。その後、クイズ、紙しばい、宝さがしがありました。クイズでは一問正かいることができてよかったです。

宝さがしは二人組でしました。しゃしんにうつっている場所をさがして、このシールをはりました。ぜんぶ外にあるものばかりでした。二人組ではしてやりました。かんとんにできました。できたらしようひんがもらえるのでわくわくしました。宝さがしは、ぜんぶあつていました。しようひんは三つしかありませんでした。五にんいたから、じゃんけんできめました。ぼくが、かったのでうれしかったです。とてもたのしかったです。またいきたいと思っています。

宝さがしは二人組でしました。しゃしんにうつっている場所をさがして、このシールをはりました。ぜんぶ外にあるものばかりでした。二人組ではしてやりました。かんとんにできました。できたらしようひんがもらえるのでわくわくしました。宝さがしは、ぜんぶあつていました。しようひんは三つしかありませんでした。五にんいたから、じゃんけんできめました。ぼくが、かったのでうれしかったです。とてもたのしかったです。またいきたいと思っています。



新井別院お食堂での紙しばい

# 参加者のひろば

## 秋安居

秋安居主任 南 智信

発祥を訪ねれば、遠くインドにさかのぼる安居あんこ。高田教区教化委員会では、本山から講師を迎え十一月九日・十日の両日にわたり、高田別院を会場に「秋安居」が開催された。

今年度の講師は、本山安居本講の名畑崇氏。名畑氏は大谷大学名誉教授で日本仏教史が専門。この安居のために執筆された講本『教行信証』成立の背景―顕浄土方便化身土文類私考―にもとづき講義をされた。

講義では、『教行信証』は法然上人の選択本願の教えを教・行・信・証の四法にもとづいて論証したものの。当時の旧仏教の顕密体制からの学匠や朝廷の批判に改解を促したものである。近年の化身土巻の意義を新たに問い直し、化身土巻を基軸に『教行信証』を読みなおしてみたい。と私考を展開。

聖人ご流罪の原因ともいえる当時の念仏禁止の動きについては、興福寺奏状のほか在籍した比叡山から延暦寺大衆解や朝廷からも官宣旨など

再三にわたり訴状が提出されていたことなど、詳しく資料を検証された。九日夕刻には公開講座も開催され、両日で六十三名の参加者だった。



## 声明作法講習会

第一組徳正寺 繁原 立

今年も本山から先生をお招きして、教区の声明講習並びに准堂衆会主催の路念仏に関する講習会が行われた。

普段の声明作法は、声を出して節譜の扱いなどを確認したりするが、今回は御遠忌においての一般寺院の荘厳や次第を学んだ。声明作法なのに、なぜ荘厳の確認をするのかと最初考えたが、ある先生に「声明もお荘厳の一つだよ。」と教えていただいた事を思い出した。本山でも御遠忌が勤まり、十一月には御正當も勤

まる。その後は各寺院や別院において御遠忌を勤める中において、今回の荘厳や式次第の確認は大切な講義であったと私は考える。

准堂衆会主催の路念仏と三匝鈴さんそうれいについての講習会では、普段葬儀において私も三匝鈴を打っているが、またいつもとは違う緊張感の中で打つたため、普段より軽く扱ってしまった。路念仏においては、茶毘式を行う場所への移動時に用いられていた念仏だから、もつとゆつくりと、少しネチネチした感じをもつと出して良いと先生に指摘を受けた。

これからまた研鑽を積んで鈴の良い音を響かせるようにしたい。



## 伝道研修会

第一組光徳寺 水嶋 聡

南無阿弥陀仏は後世の祈りをあらわす。「後世を祈る」宗祖が担われた課題である。

後世とは人生の行く末、自力の思慮分別が廃れたところに開かれてくる世界であって、我らの日常・一生涯を成り立たせ、支えてくる根柢となるような場所である。それは自己に帰せしむるといった相すがたで現われる。



一方、後世は日常から抜け落ち、現世のことばかりに眼が行って

る。今しか見ない在り方が、今日の原発や差別などの諸問題になっているのではないだろうか。今さえ善ければという現世を祈る在り方が人間の愚かさを露呈したのであろう。

『御文』に「後世をしらざる人を愚者とす」(御文第五帖目第二通『真宗聖典』八三三頁)とある。後世を見失っている我らに、後世を開こうとする、後世を建立していかうとする、その歩みが法蔵菩薩の求道である。この物語が『仏説無量寿経』である、と。

この問題提起から始まった大島先生の「浄土について」の講義は、さらに現世を祈り念仏する植諸徳本の願、第二十願の問題へ展開した。

### 教区門徒会員研修会

### 「教区門徒会員研修会」に参加して

第十二組門徒会長・横超寺門徒

小池 利男

この度、「二〇一一年度第二回教区門徒会員研修会」が十一月十七日・十八日の二日間にわたって行われ参加いたしました。現在の教区門徒会員の任期最後の研修会ということが多数の会員が参加されました。

最初、第十三組の榮恩寺と第十二組の明善寺を参詣し、それぞれ住職より親鸞聖人につつまるお話や寺の開基・建立と建立時の棟梁・大工などのお話を聞き、古い資料が良く保存されていたものと感心させられました。



これで寺院参詣を終え、昼食もそこそこに次の視察研修地の長岡市山古志地区に向かいました。震災前の山古志は一回行っておりませんが、震災後は初めてで、現地に行つて改めて地形の凄さに驚かされたと同時に、大地震による被害の大きさを感ずりました。かなり復旧はされており

ましたが、今も工事中の所もありました。家も新築され、錦鯉の養殖・闘牛・アルカパの観光を兼ねての飼育等々、一生懸命に生きて行こうとされる姿を見せていただきました。これから降雪期を迎えますが、「どうか頑張つて下さい！」と思いがながら、山古志を後にしました。

### 解放推進委員会公開学習会

第四組宗専寺 原 修

このたび、高田教区解放推進委員として、教区開催の「橋のない川」上映会、「部落差別問題の基礎を学ぶ」講師 長谷川サナエさん(部落解放同盟新潟県連合会執行委員長)の公開学習会を受講いたしました。

部落差別とは、差別するもの意識と行動によって、人格を奪いつているという歴史的現実、わたしたちの社会のしくみの問題であると同時に、私たち一人ひとりの心のなかに、長い歴史のなかで深く刻み込まれた、被差別部落の人たちへの蔑みや恐れが理由なき差別としてあらわれているものといえます。長谷川執行委員長の公開講座のなかで「差別とは、人と人とのあたたかいつながりを断ち切ること」「寝た子を起こ

すな」意識ではなく、学校教育・社会教育のなかにおいて、人権意識の向上に期待すると話されていた。また、県内三〇〇カ所の部落実態・結婚差別事件・A信用金庫身元調査事件(就職差別)等、部落差別の実態を説明された。



部落差別という一つの社会的現実が、われわれの歴史のなかで生み出されてきたことへの反省をとおし、部落差別を克服するためには、具体的な日常生活の実践が課題であると感じました。

# 愚僧のつぶやき

## へお内仏の荘厳遍⑦

今回は、お香を入れます香炉を見てゆきたいと思います。お内仏で使用する香炉には、金香炉と土香炉の二種類あります。何の為に二つあるのかといえば、金香炉は火種を入れて焼香用に、土香炉は線香を入れて燃香用にと使い分けがある訳です。

そこでまず金香炉ですが、上卓の上に荘厳する火舎香炉とは別に、耳付の金香炉があります。これはもともと香炉ではなく、鼎という神に捧げる獣肉を煮る鍋であり、古代中国の王室の宝器でありました。だから三脚の鼎の場合は、熱する時に手前から木をくべやすい様に、二本脚を正面としていたそうです。それが後に香炉と用途が変わった事により、一本脚を正面とする様になったという事です。そして、そのなごりとして当時の多くの青銅器に見られる饗饗文という文様が、ご本山の阿弥陀堂の金香炉には付いている訳です。

次に青磁色の土香炉ですが、これは金香炉より遅れて中国より伝わっ

たもので、三具足といった場合、正式には土香炉は入らないんです。実際、真宗仏光寺派のご本山では土香炉は用いないそうで、「焼香と燃香と一緒にすると香りが混じるので、香炉は一つあれば十分」という話しでした。そう言われたらそうだと納得してしまいましたが、それではなぜ当派では香炉を二つ荘厳するのかというと、そこには浄土の荘厳に対する深い思いがあった様です。青磁が中国から入ってきた当時、その青い美しさに日本中の人が魅せられたといえます。だからその青磁で作られた土香炉で浄土を荘厳したいと思ひ、蓮如上人の頃に仏具として正式に取り入れた訳です。

ただ、この様に古代中国で帝王の器といわれた鼎を模した金香炉や、人の心を掴んで離さない青磁の土香炉を仏前荘厳に取り入れる事は、ややもすると本願寺の力を内外に誇示する為と思われるかもしれません。でもそこには、この世にある最高の物で浄土を荘厳し、皆が浄土を求め心を起こすご縁となつてほしいという願いがあったと思う事です。

又、金香炉の蓋には獅子や龍が付いたものがあります。これは、中国の明の時代に始まったもので、『何者にも怖れない百獣の王である獅子も、一滴の水を大海にかえなす力を持つ龍も、我々を苦しめているものを、我々を救う種と転ぜしめる仏法に帰依しているお姿』と、有難く感ずることあります。

(ペンネーム 維摩教信)



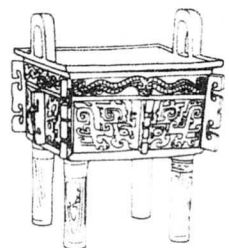
鼎



金香炉



火舎香炉



方鼎



透彫土香炉 浮絵土香炉 天竜寺形土香炉



饗饗文



饗饗紋鼎



# 響流<sup>コール</sup>29

## 御遠忌讃仰音楽法要

高田教区合唱団「響流<sup>コール</sup>29」代表 石田 一枝

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌讃仰音楽法要が、十一月十九・二十日の二日間、真宗本廟において初めて厳修されました。高田教区合唱団「響流29」からは、四名が参加いたしました。

御影堂外陣には、全国から参集した僧侶や門徒でつくる合唱団二百余名が並び、電子オルガンの伴奏で約



一時間、満堂の参詣者と共に心をひとつにして高らかに歌い上げました。コーラスは厳かに響きわたり、



感動で胸がいっぱいになりました。

この音楽法要は、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を新たに編成された法要次第にそって制作されました。僧侶・門徒が共に勤めし、誰もが親しめる音楽法要となることを願い、法要中の伽陀・三帰依文・回向が現代語訳され、ご和讃とともに新実徳英氏（桐朋学園大学院大学教授）により作曲された新しい音楽法要曲です。そして、各寺院やお内仏においても勤めさせていただけるような形式となっております。

全国各地でこの音楽法要曲による法要が勤められ、みんなが集まって同じ歌を歌い、心ひとつになる、そういう瞬間がとても大事ではないかと思いました。

次に回向「願以此功德」の和訳歌詞を紹介いたします。

願わくは 一切<sup>いっさい</sup>世界の人々と  
この出会いの喜びを  
みな平等に分ち合い  
ともに仏になる心 発<sup>おこ</sup>して  
阿弥陀みほとけの 安楽国<sup>あ</sup>に生れ  
生きてはたらく身とならん



## 響流<sup>コール</sup>29の紹介

響流29は、二十数年前に会員二十九名で発足したコーラスグループです。「響流<sup>コール</sup>」は高田教区報の「響流<sup>ひびき</sup>」からいただき、「29」は会員数です。長い年月の間に、体調不良や高齢等の理由で少しずつ会員が減り、現在は二十名で活動しています。

例会は、毎月一回第三木曜日の午後一時三十分からです。高田別院本堂で、仏教讃歌を中心に合唱練習をしています。年会費は二千円です。なごやかな雰囲気、心が和みます。お茶の時間も楽しいですよ。

一月からは、「高田別院春の法要」に向けての練習が始まります。心一つにして美しいハーモニーをめざし、練習に励んでまいります。

私達は今、会員を募集中です。グループ名の「29」にするため、がんばっています。是非多くの方に入会していただきたく思います。

### 連絡先

第二組教念寺 石田 一枝  
TEL ○二五―五五―一三二六二

# 高田教区震災支援有志会報告

見えにくくなる

三・一一を通して

高田教区震災支援有志会代表 金子 光洋

震災から九カ月が経とうとしている。現地にいるのは一人ひとり顔も性格も名前も違う人間。被災者だけれども、一人ひとり違う人間が生きている。当たり前のことであるが、そのことを忘れてはいけない。震災以後、今までに経験したことのない事が一斉に起こり、当たり前のことが変わりすぎたのではないだろうか。



10/25 足湯でつばやきを聞いてます

十一月末、宮城県石巻市寄磯浜に訪ねた時、ホタテの養殖が再開された瞬間に立ち会った。その時の現地の人々の活気は何度か訪れた中でも一番だった。六月に初めて寄磯を訪ねた時は小学校での避難所生活をさせていたが、今では仮設住宅に移り、ホタテの養殖を再開するまでに至っている。被災した海岸沿いも瓦礫のすがたはほとんど見えない。確実に月日は経過している。今に至るまで、どれ程の苦勞をされたことか。私はほんの一月に一度顔を出すだけだが、あの活気を肌で感じたことで十



10/26 子どもたちはいつも明るくて元気

分すぎるほど伝わってきた。私たちが現地でいわゆる支援活動することではみることのできない笑顔。その笑顔を見て嬉しい反面、正直言って悔しい思いもあった。改めて自分の思い上がりを感じた。



11/20 親子で足湯ファンになってくれました。

その地に生きてきた人たちが個々においてかなりの差はあるが、何らかの形で被災し、人やものを失い、現在がある。背負いきれないことも沢山ある。私たちがまだまだ聞いていない、これからは聞くことがないかもしれない思いがきつとある。話を聞くことが大切なことは十分にわかっている。しかし、話を聞くこと

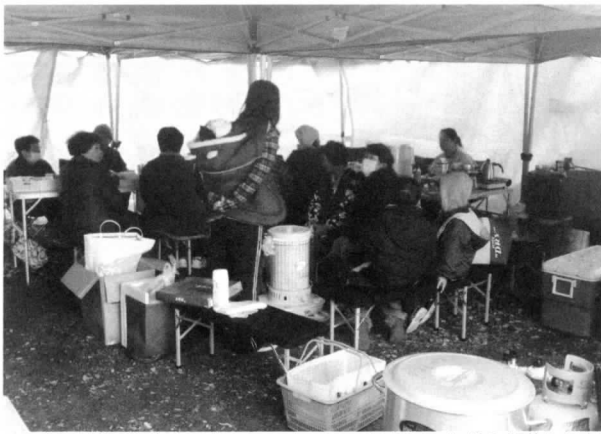


11/20 ホタテの養殖作業の現場

よりももっと大切なこと、それは顔を出すということではないか。もちろん顔を出すことが叶わない人たちも大勢いる。一度行ったから、もう一度行きたいと思うメンバーばかりが今の有志会にはいる。なぜ行きたいと思うのか。きつと一生懸命に生きようとしている姿そのものに誘われているのだろう。



11/20 喫茶風景 ストープを囲み談話中



11/20 強風と寒さの為、シートでテントを囲みながら喫茶と足湯

最近になり、有志会メンバーが回数を重ねる度に名前で呼ばれるようになった。名札などは一切つけずに活動をしている。メンバーがお互いに呼び合う名前を聞いて呼んでくれている。少し近い存在になってきたのだろうか。仮設住宅での活動後、談話室での交流会終了後に各々が各仮設に行き、酒をよばれながら話を聞く機会が増えてきた。そのままその場所で寝てしまうこともしばしば。そこでは、皆の前では聞けない何気ない一言が聞ける場でもある。外からでは見えない生活の匂いが入る場所。一軒一軒違う匂い。それは入った人間にしかわからない。こちら

ら側の距離が一気に近づいていく。良いかどうかはわからない。そこで生活をする人に対する思いが強くなる。だからそこにいる人の笑顔が、喜ぶ顔が見たい。そのためにかが月に一度でしかないが現地向かう。まだまだ不十分なことだらけの有志会。これからも多くの人の力が必要。是非、協力してください。よろしくお願いいたします。

教務所からのお知らせ

完納御礼

二〇一一年度宗派経常費(相続講金・同朋会員志)を御進納いただき誠にありがとうございます。ここに、早期完納いただきました御寺院名を御披露し、御礼にかえさせていただきます。

第1組 大雲寺 雲晴寺 長願寺 光徳寺 本立寺 寶光寺 清雲寺 圓照寺 常誓寺 西性寺 徳正寺 正覺寺 光照寺 勝蓮寺 廣傳寺 西光寺 專徳寺

第2組 善正寺 乘雲寺 法圓寺

東浄法寺 唯心寺 寶善寺 西福寺 興順寺 大蓮寺 常圓寺 陽嚴寺 萬徳寺 教念寺 明通寺 通託寺 第3組 正願寺 明福寺 大泉寺 光榮寺 安專寺 本廣寺 應滿寺 正光寺 淨福寺 第4組 宗專寺 皆順寺 第5組 流泉寺 光源寺 林正寺 覺真寺 覺法寺 信光寺 忍西寺 寶善寺 蓮光寺 智願寺 安證寺 第6組 照行寺 勝念寺 福成寺 敬覺寺 等正寺 淨光寺 教專寺 金光寺 照行寺 明法寺 善念寺 雲妙寺 安養寺 玉梅寺 照蓮寺 蓮受寺 養福寺 西安寺 淨蓮寺 明善寺 常榮寺 樹徳寺 了源寺 本淨寺 長樂寺 真宗寺 法林寺 淨國寺 安傳寺 長命寺 最尊寺 淨照寺 林西寺 長徳寺 光運寺 本覺寺 得願寺 願重寺 光照寺 唯願寺 善福寺 佛現寺 願清寺 佛性寺 第7組 皆遵寺 正教寺 願樂寺 照光寺 聞稱寺 良明寺 康源寺 道因寺 願生寺 誓願寺 善性寺 慶樂寺 第8組 泉光寺 長念寺 正福寺 養林寺 本覺寺 等覺寺 覺善寺 勝名寺 蓮淨寺 入光寺 覺願寺 延壽寺 阿彌陀寺 稱名寺 善巧寺 大嚴寺 淨音寺 蓮休寺 西方寺 願立寺 淨琳寺 臨行寺 西養寺 向源寺 明善寺 慈圓寺 第9組 照圓寺 鞍馬寺 敬覺寺 本教寺 高徳寺 法善寺 妙女寺 教願寺 稱專寺 能念寺 光圓寺 一念寺 福樂寺 輪鳳寺 高源寺 了慧寺 照源寺 京徳寺 第10組 善立寺 法西寺 徳藏寺 養善寺 明善寺 福正寺 正立寺 光圓寺 延慶寺 横超寺 西忍寺 性徳寺 西願寺 第11組 本敬寺 龍覺寺 信光寺 淨泉寺

第12組 善立寺 法西寺 徳藏寺 養善寺 明善寺 福正寺 正立寺 光圓寺 延慶寺 横超寺 西忍寺 性徳寺 西願寺 第13組 本敬寺 龍覺寺 信光寺 淨泉寺

願専寺 龍覺寺 最尊寺 淨嚴寺  
 明通寺 松橋寺 徳専寺 雙善寺  
 光徳寺 養性寺 照専寺 西念寺  
 正法寺 養法寺 惠光寺 善照寺  
 正行寺 龍光寺 了僧寺 光遍寺  
 稱念寺 船入寺

(二〇一二年七月一日)  
 十月三十一日  
 以上二百二十九カ寺

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌御  
 修復懇志金御依頼額を完納いただき  
 誠にありがとうございます。

ここに、完納いただきました御寺  
 院名を御披露し、御礼にかえさせて  
 いただきます。

第1組

寶光寺 勝蓮寺 廣傳寺 専徳寺

第2組

東浄法寺 西福寺 興順寺

大蓮寺 陽巖寺 教念寺

第3組

大泉寺 淨福寺

第5組

光源寺 覚法寺 智願寺 安證寺

第6組

照行寺 福成寺 等正寺 照行寺

安養寺 蓮受寺 西安寺 明善寺

了源寺 本浄寺 最尊寺 林西寺

長徳寺 光照寺 唯願寺 善福寺

佛現寺 願清寺

第7組  
 照光寺 聞稱寺 康源寺 道因寺  
 誓願寺 圓常寺 靈山寺 願勝寺  
 敬覺寺 圓了寺 唯念寺 正行寺  
 明道寺 勝福寺 淨善寺 廣建寺  
 慈雲寺 正善寺 圓光寺 福因寺  
 西蓮寺 教蓮寺 正念寺 法泉寺  
 妙土寺

第8組

長念寺 等覺寺 蓮浄寺 覺願寺

阿彌陀寺 淨音寺 願立寺

臨行寺 向源寺

第11組

鞍馬寺 本教寺 一念寺 輪鳳寺

了慧寺 京徳寺

第12組

法西寺 養善寺 明善寺 福正寺

延慶寺 横超寺 西忍寺 性徳寺

第13組

龍覺寺 淨嚴寺 松橋寺 徳専寺

雙善寺 光徳寺 正法寺 養法寺

龍光寺 了僧寺 光遍寺 船入寺

(二〇一二年七月一日)

十月三十一日  
 以上 九十四カ寺

●おくやみ申しあげます

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀  
 悼の意を表します。

第2組 寶善寺住職 島倉 善圓

第7組 聞稱寺住職 水野 馨

第8組 入光寺前住職 龍池 義郷

第11組 法善寺前坊守 直峯りよ子

第11組 眞養寺住職 岩崎 秀惠

第13組 養法寺住職 松岡 正徳

●おめでとうございます

◎住職任命

第6組 照蓮寺 藤原 哲

第7組 願生寺 平出 文勇

第8組 本覺寺 八木 智学

◆こもれび◆

二〇一一年もあとわずかとなりま  
 した。振り返りますと、本当に様々  
 なことが起こった一年だったように  
 思います。

三・一一の東日本大震災から私た  
 ちは様々なこと考えさせられまし  
 た。先日今年の流行語大賞が発表  
 されていました。その中には、震  
 災関係のことばが多く取り上げられ  
 ていました。被災地では復興に向け  
 てがんばっておられます。ここ高田  
 教区でも有志の活動が、この『響  
 流』や『saiho』誌で報告されてい  
 ます。また今年八月「キッズふくし  
 まサマーキャンペーンたかだ」が開  
 催されましたが、教区として今後も  
 このような支援を継続していくとの  
 ことです。私たち一人ひとりが、で  
 きることで協力しなければならぬ  
 でしょう。

本山では、三月から五月には御遠  
 忌法要が勤まり、先月には御正当報  
 恩講が勤まりました。「報恩講に始  
 まり、報恩講に終わる」ということ  
 ばがありました。私たちがこの御  
 遠忌に遇い、何を感じたかを、これ  
 からさらに確めていかなければなら  
 ないでしょう。

(大滝)



『響流』編集委員会からの依頼原稿、並  
 びに、お寄せいただいた原稿について  
 は、漢字の使い方・言いまわし等、で  
 きる限り執筆者の表現を尊重して掲載  
 させていただきました。